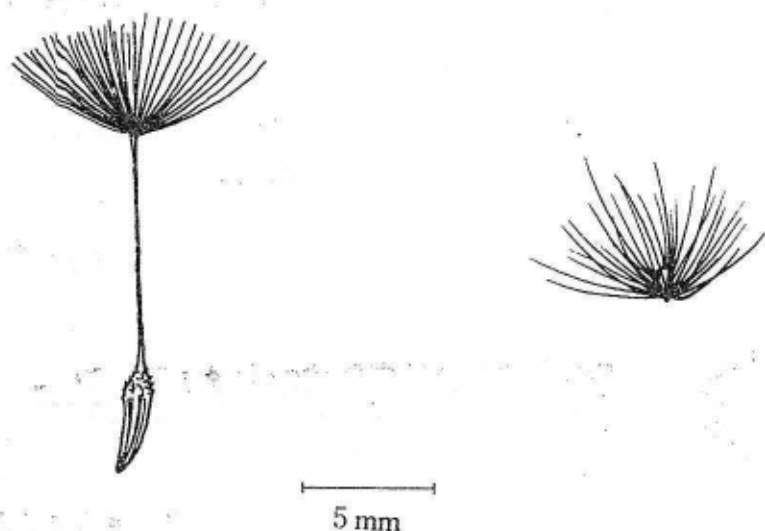


春風に舞う綿毛

5月になると、市内のあちらこちらで、空中をふわふわと舞う、綿毛に出会うことがあります。そっとつかまえてみると、下の図のように2種類のものがあることが分かります。左の絵は、「タンポポのらっかさん(果実)」ですが、さて右側は何でしょう。それは、タンポポの傘の部分の綿毛よりもさらにやわらかくて、その中心に小さな黒い点がついているだけのものです。時には点のないものもあります。

5月10日頃、私は、富山市公会堂の前でこの綿毛に出会ったことがありました。その発生源を探してみたところ、この綿毛は、富山城址公園の堀のまわりに植えてある何本かのシダレヤナギの実から出ていることが分かりました。



さらに、シダレヤナギと同じヤナギの仲間をさがしてみると、大きなポプラが何本も生えていました。ポプラの近くにもたくさん綿毛が舞っていました。城址公園付近を飛ぶ綿毛の正体は、シダレヤナギとポプラの種子だったのです。形は同じですが、ポプラの綿毛の方が少し大きいようです。

綿毛を飛ばす植物には、このほかに、神通川や常願寺川の河原に生えるヤナギ科のイヌコリヤナギやカワヤナギ、コゴメヤナギ、また、街の道ばたや公園に生えるタンポポの仲間のセイヨウタンポポとエゾタンポポがあります。

野生のヤナギ類は河原に、タンポポ類は道ばたや公園にと、どれも開けた場所に生える植物です。空中に飛び出した種子は、別の開けた場所に落ちれば、そこで発芽して育つことができますが、いったん飛んでしまった種子の行き先は風まかせですから、定着して発芽できる可能性はたいへん低いものになります。このような植物では、生きるために大量の種子を作ることが当たり前になっています。一見、このことは全く無駄のように見えます。しかし、もし近くに新しくできた空き地があれば、飛ぶ種子を作る植物にとっては、そこへ一番乗りできるというメリットがあるのです。彼らは、多量の種子が無駄になっても、この利点をいかして生きのびてきたのです。

(太田道人)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764)91-2123

平成7年5月1日 発行